

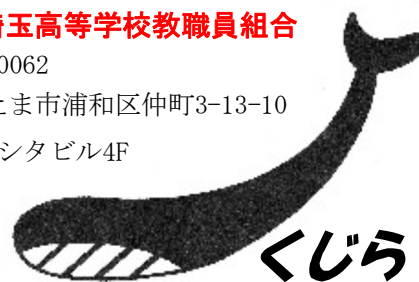


発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギシタビル4F



くじら

NO. 693

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

3月11日(火) 第2回 多忙化解消・負担軽減検討委員会 参加

県教委よ 働き方改革基本方針への真摯な反省を求む！

(おまけ) 裸の王様、隗より始めよ

3月11日に開催された第2回多忙化解消・負担軽減検討委員会では、県教委のこのかんの取り組み状況が報告されている。ところで、県教委の立てた「学校における働き方改革基本方針」には達成目標が定められており、2022年度に公表された現行方針の取り組みが最終年度末を迎えようとしている。まずはその概要をおさらいしておこう。

(目的) 働き方改革を推進し、学校教育の質の維持向上を図る。

(本県の目指す教職員の働き方) 「日本一働きやすい」「埼玉の先生になりたい」と言われる埼玉県を目指して。

(目標) 時間外在校等時間 月45時間以内、年360時間以内の教員数の割合を令和6年度末までに100%に。

以下、目標達成にむけた4つの視点、フォローアップ、新「基本方針」の詳細、と項目は続く。

目標は達成されたのか(愚問)

これらを眺めて、余りに空虚な県の作文に思わず笑ってしまった。よくこんなことが書けるなど。民間を辞めて折角教員になった若人が、いくつかの職場で3年と経たずに退職しているという。県の誇大広告に酷い目に遭ったと思ってる人がいるかもしれない。原因の一つは、部活などで休日がしっかり休めないことだと聞く。労働者が休日に休むのは、基本中の基本だ。それが守られない学校現場の異常さを、県教委・管理職は親身に感じているだろうか。

今年度の最終的な数値は確定していないが、時間外在校等時間に関する2つの目標は、疑いようのない完敗であろう。今回の多忙化解消・負担軽減検討

委員会での議論を経て、次年度当初には今期の基本方針に関する総括と次期のそれが公表されるが、県がどのような総括(反省)を行い、実現可能な目標や施策を掲げるのか、是非注目したい。

数少ない進展—土曜授業—

高教組ニュース691号(2/20発行)で確定交渉の成果を報告したが、その中で土曜授業に関する項目があった。紙面の関係で詳しく報告できなかったが、その後の協議も踏まえて、現在までの進展を示そう。

1月下旬、土曜授業実施校の全校長がオンラインで集まり、連絡協議会が開催された。その中で、①県教委からの情報提供(全国・関東近県の土曜授業の実施状況)、②学校間の情報・意見交換、③廃止を決めた学校からの報告が行われた。

廃止を決めた学校の英断に拍手を贈りたいが、実際に見直しの動きが出ていることは、他校にも大きな影響を与え、次期学習指導要領改訂に合わせて、土曜授業を追い詰めてゆくことになるだろう。

隗より始めよ

県教委の公式Instagramをご存じか？最近の投稿に「埼玉県教育長のとある1日」というのがある。業務と詳細な時間経過が示されている。7:15出勤、19:30退勤である。超勤3時間半以上、ご苦労様である。しかしながら、トップの超勤が部下や現場にはどう映るのか？俺がこんなに働いているのだから、つべこべ言うな、の潜在意識を感じてしまう。これをアップした県教委の感覚も問題だ。教育長を裸の王様にしてはいけない。県教委はトップを諫め、現場の支援に粉骨砕身で当たらなければならない。隗より始めよ、今まさしく問われている。

狭山事件 石川一雄さん 逝去

狭山事件で被告とされ、無期懲役確定後、無実を訴え3回目の裁判やり直し(再審)を求めている石川一雄さんが11日、86歳で亡くなられた。時間がかかりすぎる再審制度の問題と併せて事件を終わりとさせてはならない。

★「狭山事件」とは？

1963(昭和38)年5月1日、川越高校入間川分校(現狭山准看護学校)別科1年生の女子(四女)が行方不明になった。その日の夜、四女の生徒手帳と共に自宅に誤字だらけの脅迫状が届き家族は警察に連絡。指定された3日午前0時頃、身代金代わりの偽造紙幣を手にした次女が犯人と会話を交わすも、張込みに気づき「警察に話したんべ。おらあ、帰るぞ」と逃走。脅迫状を真に受け表通りのみの配置しかしていなかった警察は40人もの刑事が張り込んでいたにも関わらず取り逃す。

4日になり、入間川の雑木林から麦畑に出た農道で遺体発見、遺体は目隠し、首と脚は細引き紐で巻かれ、手拭いで後ろ手に縛られていた。うつぶせに埋められた遺体の上には荒縄が置かれ、遺体の頭部には玉石が載せられていた。

犯人の取り逃しをマスコミにも叩かれた警察は近くの養豚場は愚連隊の溜り場という聞き込みから従業員だった当時24歳の石川一雄さんを窃盗などで5月23日別件逮捕。自白しないと兄を逮捕するぞと

いう脅し、トイレもその場でさせる過酷な取調べに石川さんは一旦自白したが、その後無罪を訴えて再審請求を続けてきた。

★証拠にならない証拠 脅迫状 万年筆

そもそもこの脅迫状、当時ほぼ字が書けなかった石川さんが書けるはずもなく、誤字があるが敢えてそうしているという作為が感じられるとの指摘もある。

又、被害者の物とされる万年筆は、何と3回目の石川宅への捜索で見つかっている。しかも身長160cm程度の者が普通に立って見える程の高さの鴨居にあった。加えて、万年筆のインクはブルーブラックで、被害者が当日ペン習字の授業で使ったインクはライトブルー。このようにいい加減な証拠ばかりで1977年に最高裁で無期懲役刑が確定した。1994年12月からは仮釈放ということで出所したが、保護司への報告や泊を伴う旅行等は許可制といった、あくまでも罪人という扱いは変わらない。

★無罪を勝ち取るまでは！

冤罪と呼んでいい狭山事件だが、他の冤罪事件と異なり、石川さんが被差別部落出身ということで、でっち上げられたという部落差別の一面もあるということだ。だから、石川さんには再審開始、無罪判決までお元気でいて欲しかった。しかし、これで終わりではない。埼玉高教組は、無罪判決を得るまで、そしてその後もこの事件を後世に伝えていきたいと思う。

青年部主催の学習会で「生徒指導の悩み」を共有

今回は3/1(土)に行われたくじら学習会「生徒指導の悩みを共有しよう」に関しての報告をさせていただきます。様々な思いのある青年部から職場の状況報告及び課題の共有がなされ、それに対してベテラン組合員からアドバイスをもらうという形で会が進みました。青年部からの感想はこちら。

①「うちの学校大変だね」「教員が楽をしたいから」という安易な意見や文句で終わらせず、「子どもたちへの教育活動に影響が出るから改善してほしい」という視点だということを忘れずにいたいと感じた。どこも大変。だからこそどうしなければならぬかを「今ある資源」を有効活用し、解決する視点も持てるようになりたい。学校現場にとらわれず、様々な企業や地域社会に目を向けて協力体制を作りたいと感じた。

②生徒指導の際、教員側がある程度方向性を決

めてから、そこに向けて生徒を持っていく、見かけ上は生徒がやっているようにするとよいという意見を頂きました。分科会という形は議論が結構弾むので、今後もこのような形でできるとよい。

③ベテランの先生方と悩みを共有することによって、違った観点からのアプローチの仕方を学ぶとともに、教員側の思い込みや決めつけの危険性があることを知ることができた。

来年度からのくじら会議でも、青年部主催の学習会は継続して行っていくつもりです。悩みのある方、学校で相談しづらい方、学校教育をなんとかして変えたいと思っている方。学習会でぜひ意見を共有しましょう！お待ちしております。

またくじら青年部では、何らかの形で集まって職場課題の共有を定期的に行っていきます。そのご案内もこれから順次していきますので、お楽しみに！